

西東三鬼のふるさと俳句投句函

令和六年十二月締め 入選句

一般の部 特選

行く秋や城址より見ゆ川ふたつ
記憶より小さき城内冬紅葉

徳島県 内田 孝子
鏡野町 原 洋一

一般の部 入選

水借りし家は空家に墓洗ふ
山眠る井戸の財宝そのままに
櫓仰ぐ旅の途中や鱗雲
ここに神おはすと石碑しぐれをり
冬空や蔵の高窓半開き
二人では聞こえなかつた虎落笛
冬深し温泉街のカフェ無人
美作は洋学の地ぞ秋澄めり
柿乗せてシルバーカーの友来る

加茂町 岡田 邦男
鏡野町 西村 泉
新潟県 舟端玉
鏡野町 三木 まゆみ
岡山市 柴田 奈美
津山市 梅田 千壽子
鏡野町 藤田 明子
岡山市 猪俣 信子
鏡野町 西村 なほみ

ジュニアの部

津山城石段ごつごつ秋時雨
津山城秋の涼しさ身にしみる
紅葉燃ゆ城址で食べるさつま天
カモもぐる緑広がる衆楽園

兵庫県 シヤオリンかつぱ
岡山市 榎原 愛子
神奈川県 齋藤 幸太郎
神奈川県 足本 環奈

岡山県立津山商業高等学校
衆楽園緑に映える着物姿
見上げれば空と紅葉が心地よい
衆楽園かれゆく草木とにしきごい
鴨遊ぶ秋を感じる園の池
登るたび重ね着ぬいでく津山城

真庭市 三村 望乃華
勝央町 西元 ゆうか
津山市 岡田 晴希
美作市 小林 陽菜
津山市 近藤 美来

(今回投句数 三百四十六句)

